



想像ラジオ
 いとうせいこう著
 河出書房新社 2013

所蔵館	請求記号
生田分館	J/913.6/I89
神田分館	J/913.6/I89

**ある明治人の記録
 一会津人柴五郎の遺書**
 柴五郎著
 中央公論新社 1971 (中公新書)



所蔵館	請求記号
本館	X/081/C64/252
神田分館	X/081/C64/252

【著者プロフィール】
 いとうせいこう
 1961年3月19日生
 俳優
 小説家やラッパーとしても幅広く活動するクリエイター

【著者プロフィール】
 柴五郎 (しば ごろう)
 [1860-1945]
 日本の陸軍軍人
 軍事参議官・台湾軍司令官などを歴任

島津 京 (文学部准教授)

我々は普段それぞれの日常を生活しているが、もしかしたら惨事に遭遇し、日々の生活を失うかもしれない。あるいは、自分の日常は犯されないが隣人の日常は破壊されるような出来事が起きるかもしれない。そのような時我々は何を考え、どのように振る舞うだろうか。

2011年の東日本大震災は多くの人の命や日常を奪ったが、同時に多くの人にとって、それはニュースでしか知ることのない出来事だった。今日のメディア環境の発達により、我々は古今東西の出来事を日常とは切り離された情報として知る。『想像ラジオ』は、そこに横たわる溝を見つめ、両者の架橋が何によって可能になるかを語る作品だ。

「ラジオ」という言葉が暗示するように、この小説は、語ることと耳を傾けることがひとつのテーマとなっている。作者のいとうせいこうは日本のラップ・ミュージック開拓の第一人者であり、発話の力をよく知る人だ。我々はこの本を目で読むのだが、実際には聞くと言ってもよいかも

しれない。読後には、ふと耳を澄ませる人もあるのではないか。文学によってのみ掴める領域が確かにあると思わせる一冊だ。大学生のうちにぜひ読んでみてほしい。

一方「ある明治人の記録：会津人柴五郎の遺書」は自伝である。幕末の政治的な大変動において、十歳で敗者側の人間として生きることになった会津藩士の子柴五郎が、成長し士官学校に入るまでがつづられる。とにかく壮絶な子供時代である。親の自害、逃亡生活、極寒の地への流刑とも言える移住などの厳しい境遇が、子供の日常として語られていく。こうした事を教科書類から読み取るのはなかなか困難なことだ。整理された情報の羅列ではなく、人間の日常の連なりとして歴史を捉える事ができる本である。

文語体で書かれているため最初は読みにくさを感じる向きもあるが、全く気にせず読み進めていけばよい。いつの間にか泣いているかもしれないので、自室で読むことをお勧めする。